



一日にせめて一度は

手を合わせ……

昨日もいたづらにくれぬ

今日もまたむなしくあけぬ

——法然上人 登山状より——

会話や歩行の速さは、文明の程度に比例するといふ。ある調査によると、日本人が一番速く歩くのが大阪人。外国の大都市と比べても大阪人は速い。いや日本人は速いといつてもいいだろう。忙しい忙しいと言つて社会の中を今日もかけめぐらる。

文明の発達とともに日本人は人間の最も大切な「ころ」を失つたようだ。

毎日毎日忙しい私たち。だからこそ、せめて一日に一度ぐらいは仏様に手を合わせたいのです。

総本山 永観堂 禅林寺



活いかせ生命いのち 燃もやせ生命いのち

命終のぞわるときに臨まんで

こころ顛てんとう倒たうせず

——善導大師——

中国残留孤児のことを、今知らない人はいないだろう。ある日突然、ほんとうの両親でも中国人でもない知らされた子は、すべての人格がそこに崩れてゆくのを知る。そして幾度となく幾度となく、こころのなかに葛藤かっとうを繰りかえし、今、真の私の命のありようをさぐりだし、今、縁あって縁を得てこの命が生かされていたのだと知った。孤児にとって養父母の告知は、新たな出発への如来さまの大悲のことばと言っている。

あなたに甘えはないだろうか。日々命を粗末そまつにしているいでしょうか。あなたの問題問題なのです。

総本山 永観堂 禅林寺

心の眼がひらける時

美しい浄土が見える

阿弥陀仏と申すばかりをつとめにて
浄土の莊嚴見るぞうれしき

——法然上人——



イギリスの物理学者が、研究室の学生にこ
う言いました。

「この試験管の中には、ある母親が流した
涙が入っている。この涙を分析すれば、ただ
の水分とわずかの塩分。……だけだろうか。
いや、ちがう。科学では絶対に分析すること
のできない尊い愛情がこもっているのだよ」
見える世界、触れられる世界だけがすべて
ではありません。見えない世界、触れられな
い世界の方が無限に広く、大きいのです。

絵本山 永観堂 禅林寺

澄⁺ましてみよう あなたの耳を

生きて身を

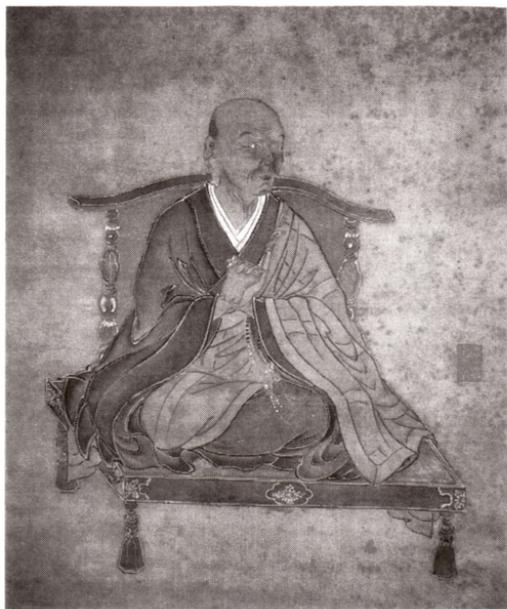
蓮^{はらす}の上に宿さずば

念仏申す 甲斐やなからん

—— 西山上人 ——

今日の私たちの生活は、科学技術の長足の進歩により、朝起きて夜寝るまで、否、寝ている間も進んだ技術や物質によって、便利に生活できるようになりました。しかし、ともすれば心の問題を忘れ、「金さえあれば、幸福な生活ができる」という誤った考えに、落ち込みます。私たちは物質を単なる物と見なして、人々の努力の賜物、自然の恵みとして生かして使う心がけをしたいものです。

総本山 永観堂 禅林寺

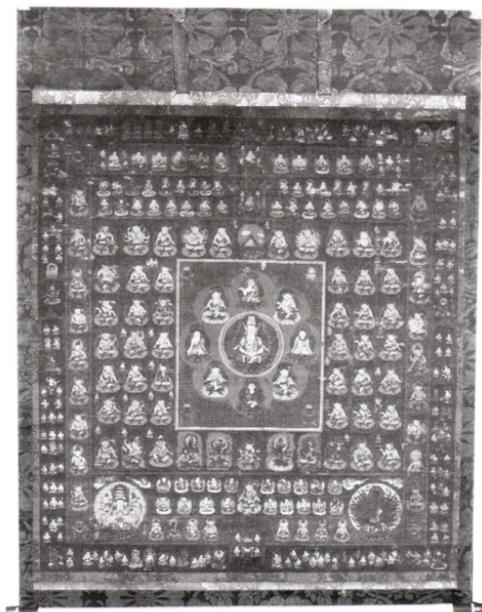


今の心に 仏を持とう

仏の強縁を

忘るることなかれ

—— 西山上人ご法語 ——



「お前の通力はどれ程か」と釈尊に問われた孫悟空は、「では御覧に入れましょう」と金斗雲に乗って一っ飛び。フルスピードで飛び行くとこの世の「果て」と思われる所に五本の巨大な柱が建っています。ここに降り立ち「悟空ここに至る」とサインして意気揚々と釈尊のもとに帰って行き、その「実力」の程を披露しますと「お前のサインとはこのことか」と釈尊は御自身の指をお示しになった……（『西遊記』）。

このように私たちは、仏の手の中から「逃られない」のです。ならばこれを素直に喜ばうではありませんか。

総本山 永観堂 禅林寺

みんな仏に 囲まれて

仏を念ずる者あらば

諸仏の家に生まるべし

観
經

昭和六年四月二十日二十日
開山真紹僧都千百年

遠忌法要嚴修

総本山 永観堂禅林寺

今からひと昔もふた昔も前のことを思い出します。学生るときある教科で「オオカミ少年」の話の聞いた事を。

裸で四つ足ですばやく動き回り、鋭い歯で生の肉をかみちぎる。勿論言葉は話せない。

何故？ それは生まれてからオオカミと一緒に育ったから。オオカミに育てられたから私たちもそうではないだろうか。まわりの環境に大きく左右される私たち。

この身は必ずお浄土へ生まれていく。そしてたくさんの仏様に囲まれて美しい心に育て上げられる。それが往生ということ。

総本山 永観堂 禅林寺

一生涯 努めること

生まれがたき浄土に往生せんこと

悦びの中の悦びなり

法然上人

昭和三年四月二十日二十音
開山真紹僧都千百年

遠忌法要嚴修

総本山 永観堂 禅林寺

『迎えにきたら』という歌があります。

「喜寿の七十七に迎えにきたら、まあだ早いと答えておけ」「傘寿の八十に迎えにきたらそんなに急くなといっておけ」「米寿の八十八に迎えにきたら、もすこしお米をたべてから」「卒寿の九十に迎えにきたら、折りみてぼつぼつこちらから」「白寿の九十九に迎えにきたら、百の祝いがすむまでは」「皇寿の百十一に迎えにきたら、そろそろ譲るか日本一」「いざれお浄土に還るのですから、命ある間、生き尽くし、思い残すことなく、爽やかに天寿を全うしたいものです。

総本山 永観堂 禅林寺

「感謝の心で 在すがごとく」

朝夕に追孝の報謝を抽でて 存亡共に孝行を致すべし

西山上人「五段鈔」



「あなたの代わりに、私がお墓参りをいたします」。こんな広告が入っていた。お墓参り代行業”である。勿論、料金を明示してあった。これには私もおどろかされた。何と世の中変わったものだ。

こんな広告があるということは、依頼する人もいるのだろう。

いったいお墓参りって何なのだろう。

—— この私が尊い生命をいただいたご先祖。

この強縁としか呼びよのない深いつながり。これを本当に心の中に思うとき、手を合わせずにはおられない!! これがお墓参り。

総本山 永観堂 禅林寺

ユーモアは心のお化粧だ

慈心をもって相向かい

仏眼をもって相看^みん

——善導大師——



微笑は、人間の心の底を流れる地下水である——とは、実に当を得た表現だと思えます。

この表現によって今日の世相を見ると、現代に生きる私達は、残念ながら、この地下水が極めて乏しいように思えてなりません。

人間は一人では生きて行けない存在です。他人との関わりの中で生きて行かねばなりません。従って自分の人生を愛するならば、他人の人生を温かくしようとする熱意もなくてはなりません。

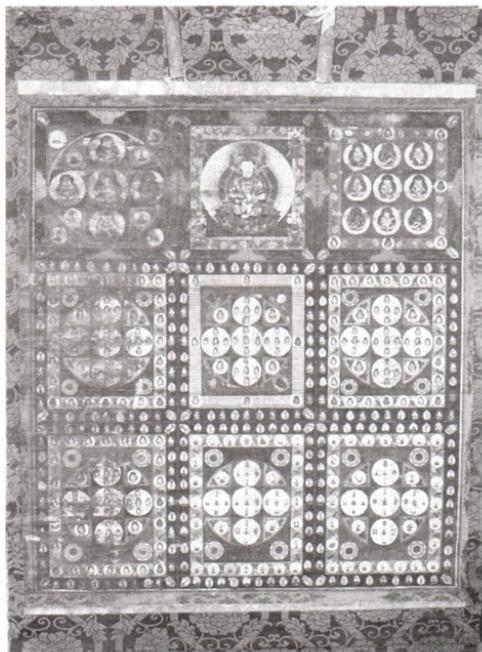
この熱意が“心の地下水”を豊かにするのであり、それが自然と外ににじみ出て美しい表情になるのではないでしようか。

総本山 永観堂 禅林寺

慈悲心のあるところに
仏がいます

仏心とは大慈悲これなり

— 観無量寿経 —



写真説明
真言、胎藏界曼荼羅（寺宝）

サトウハチローさんに『おかあさん』という詩集があります。手のつけられない暴れん坊だったハチロー少年を優しく見守ってくれた母への、追憶の詩集です。その中にこんな美しい詩があります。

一番苦手なのは おふくろの涙です

何もいわずに こっちを見ている涙です

その涙にあかりがゆれたりしていると

そうして灯りが だんだんふかれてくる

と これが一番苦手です

母親の涙、それは美しくも悲しく、百万

言にもまさり、悪童ハチローを立ち直らせ

たのです。母心の中に仏心があります。

総本山 永観堂 禅林寺

素直に聞ける

“やわらかい耳を”

聞は知なり

— 西山上人 —

昭和三年四月二十日二十言
開山真紹僧都千百年

遠忌法要厳修

総本山 永観堂禅林寺

普段の生活ぶりや言動ぶりを見ている限り、想像も出来ない苦しみや悩みを持っている人に出会われた事が、お有りと思いません。

そんな時に私たちに出来ることと言えばただ静かにその人の苦しみなり悩みというもの聞いて上げることだけでしょう。

ただそれだけのことですが、決して外部に漏らさず、ともに泣いたり心配してあげるだけで、どんなにかその人の心は軽くなると聞きます。

これを「耳奉仕・耳供養」と名付けるのですが、これが出る人が一人でも多くなれば、すばらしいことですね。

総本山 永観堂 禅林寺



国宝 金銅蓮華文磬

ほどこしは、[〃]ほどを越して[〃]こそ

— 布施の心 —

人間はだれでも、損得を離れて他人ひとさまのために役立ちたいと願う心があります。

これが、ほどこしの「原点」ではないでしょうか。他人の生命いのちを救おうとして自己を犠牲にするときなどは、その最たるものでしょう。

こう見てまいりますと、ほどこしは「ほどほど」では駄目なのであって、「ほどを越す」ところに真価があるのですね。

見返りを求めずに、与えることだけに徹する—これは中々できることはありません。でも、だからこそ実行目標にしたいと思うのです。